第六十一回 全日本書初め大展覧会・授賞式

第61回全日本書初め大展覧会・授賞式は、２月23日（日）東京・千代田区の日本武道館において、受賞者・来賓・関係者合わせて約１３００名が出席して盛大に開催された。

授賞式では１月５日に日本武道館大道場で行われた席書大会の作品３１９３点（予選を含む）、国内外からの公募作品１万４７３点の中から選ばれた内閣総理大臣賞をはじめとする特別賞、優秀・優良団体賞の受賞者約２４０名が出席した。

栄えある内閣総理大臣賞を受賞したのは、鈴木美千枝さん（静岡県伊東市）、日本武道館大賞には、中村美月さん（福岡県福岡市立鳥飼小学校５年）が選ばれた。

内閣総理大臣賞を受賞した鈴木美千枝さん

◇授賞式

授賞式は午後1時から日本武道館大道場で行われた。はじめに高村正彦大会会長（日本武道館会長）が挨拶に立ち、「書初め大展覧会は日本武道館竣工の翌年に第一回が開催され、本年で第六十一回を迎える、新春恒例の由緒ある大会です。各賞に輝いた皆様は今回の受賞を励みに、一層精進され、来年もすばらしい作品を書き上げられますことを心より期待いたします。結びに、本展覧会のために、ご指導された先生方、また、ご尽力いただいた関係の皆様方に心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。本日は誠におめでとうございます」と述べた。

次に、水谷尚人（みずたになおひと）文部科学省初等中等教育局視学官が「本展覧会には、児童生徒や学生の皆さんのすばらしい作品が数多く出品されたと伺っております。皆さんが日頃から頑張ってきた成果であるこれらの作品は、書写、書道の水準を一段と向上させ、書の伝統と文化の継承・発展に大きく寄与するものです。今後も皆さんが、

書写、書道に親しむことを通して、想像力や表現力を伸ばし、一人一人の個性や可能性を最大限に発揮しながら、心身ともに健全で豊かな未来を切り開いていかれることを心から期待しています」とあべ俊子文部科学大臣の祝辞を代読した。

続いて、書道国会議員連盟・山谷えり子参議院議員（日本武道館常任理事）が挨拶に立ち、「展覧会場で皆さんの受賞作品を見させていただきました。どの作品も立派な力強い作品で感動しました。これからも美しい書の道を歩んでください」と述べた。

表彰は内閣総理大臣賞から始まり、受賞者の鈴木美千枝さんに高村大会会長から賞状と盾が授与されると、会場からは一際大きな拍手が送られた。引き続き、厳粛な雰囲気の中で日本武道館大賞、文部科学大臣賞などの特別賞受賞者が表彰された。

すべての表彰が終わり、加藤東陽第61回展審査部長が審査講評を述べた（詳細は18頁）。最後に、受賞者を代表して鈴木美千枝さんが謝辞を述べ（詳細は18頁）、閉式となった。

◇展覧会

同日、午前10時から午後4時まで日本武道館小道場で展覧会が行われた。会場には、内閣総理大臣賞をはじめ、特別賞受賞作品324点、特別出品として大会審査顧問の先生方の作品12点が展示された。

開場と同時に多くの受賞者や家族・関係者が来場して、自身の作品と並んで記念撮影をする光景や受賞作品を観賞する姿がみられ、大盛況となった。

加藤東陽大会審査部長

山谷えり子参議院議員
（書道国会議員連盟）

水谷尚人文部科学省
初等中等教育局視学官

高村正彦大会会長
（日本武道館会長）

授賞式風景

作品の前で記念撮影

山谷えり子参議院議員が作品を観賞

受賞者代表謝辞

静岡県伊東市　一般

鈴木美千枝

　第六十一回全日本書初め大展覧会に於て大変栄誉ある賞をいただきありがとうございます。受賞の報を受けた時は嬉しいより驚きの方が強く信じられませんでした。今でもまだ夢をみているようです。今大会の運営、審査にご尽力下さいました諸先生方に深く感謝申し上げます。

　コロナの流行等もあり、私にとりまして六年ぶりの席書での参加でした。開始を告げる太鼓の音に全身が震え頭の中が真っ白になったのを覚えています。

　今回は最初から「かな」での挑戦を決めて練習に入ったのですが、貫之のうたをどう美しく表現しようか悩みました。変体仮名を効果的に使うにはどこにどう入れようか試行錯誤の苦しい毎日が続きました。

　そんなとき、教室内の最高齢しかも体調不良の私を気遣いやさしく接してくれる仲間、孫・曽孫世代の生徒たちのたのしげに書に向かっている姿にふれ、気負いすぎている自分に気付きました。この仲間たちから若さと活力癒しを貰いながらやっと本番を迎えることができました。今日、こうして受賞できましたのも、この仲間たちがいてくれたお陰とほんとうに感謝です。限りある人生ですが、これからもこのかけがえのない大切な仲間たちと書を学べる幸を感じながら精進していこうと思います。

　最後になりましたが、日本武道館様の諸事業のますますの御発展と皆さまのご健康を祈念し謝辞とさせていただきます。

令和七年二月二十三日

受賞者代表　鈴木美千枝

審査講評

第六十一回展審査部長　加藤東陽

　今年は、全国各地より席書の部三千百九十三点、公募の部一万四百七十三点、合わせて一万三千六百六十六点の力作が寄せられました。

　書に親しみ、筆を持つ喜びを味わいながら、すばらしい作品を出品されました皆さんに心から敬意を表します。

　審査会は、日本武道館において行い、「席書の部」を一月六日に二十二名の審査委員で、「公募の部」を同十九日に二十六名の審査委員で、一つの書きぶり（書風）や地域の偏りがないよう配慮するなど、公平かつ厳正に投票によって行われました。特に、公募の部においては、要項にある「書初めにふさわしい語句」かどうか、という観点からも検討されました。

　作品のレベルが年々向上しており、審査にも一段と力が入りました。特に、上位の賞の決定にあたっては、一回目の投票では決まらず、決選投票を行うなど、実力が伯仲していたことも申し添えておきます。

　また、公募の部では、作品の評価は高いレベルでしたが、色付きの画仙紙のために、出品要項の規定違反（用紙は白色）として選外となった出品団体がいくつかありました。誠に残念でなりません。くれぐれもご注意ください。

　さて、今回展の特色として、次の三つを挙げてみました。

　まず一つは、今年も小・中学生の席書と公募共に、全学年にわたって全国各地から地域性に富んだ力作が多数出品されていたことが挙げられます。全国的に筆のつながりを持つ書初め展であることを実感したことです。

　二つめは、高等学校、大学及び一般の作品において、漢字・仮名共に臨書作品が多いと感じましたが、審査委員が漢字仮名交じり書の中で、高校生の「あっ！」と息をのむ作品がありました。被災された能登半島の皆さんへの一日も早い復興を願う気持ちを、自分の言葉で書いた作品でした。自分の目と心を育て、乗り越えたい壁に向かって言葉を選び、筆に託して作品づくりに取り組んだ姿は、とても感動し、印象的でした。

　三つめは、審査後にわかったことですが、席書の部において、最高齢（八十三歳）の方が、見事に内閣総理大臣賞を受賞されたことです。静岡県伊東市から日本武道館まで足を運んで、しかも限られた条件（二十四分間で指定用紙二枚に書く）の中で、完成度の高い作品を仕上げたことに、審査委員一同、感激しました。いわゆる生涯学習（高齢化社会）を象徴するような、書の特質を物語るような、年を重ねても学びを継続し、年を重ねるごとに益々良い作品を制作できるということを立証してくださったのです。誠にうれしい限りです。

　これからも「書初め」は、伝統文化の一つとして次世代へと継承してゆくことはもちろんのこと、時代の変化に応じた新たな創造と発展も求められてきます。

　今年のこうした三つの動きが象徴するように、この「全日本書初め大展覧会」も、書道文化としての更なる発展・充実が期待されております。

　来年も、全国からの多数の力作にお会いできることを期待して、審査講評といたします。

第61回 全日本書初め大展覧会

内閣総理大臣賞

席書の部　静岡県　伊東市　83歳
鈴木美千枝

日本武道館大賞

公募の部　福岡県　福岡市立鳥飼小学校　五年
中村美月

文部科学大臣賞

席書の部　熊本県　宇城市立当尾小学校　六年
吉本七晴

席書の部　岡山県　明誠学院高等学校　二年
吉田真依

公募の部　新潟県　新潟市立高志中等教育学校　三年
亀山歩識

公募の部　宮城県　東松島市　一般
山舘茂